

利尻島大空沢よりチシマキンレイカ確認の報告

鈴木順子¹⁾・宮本敬之助²⁾・宮本誠一郎³⁾・佐藤雅彦⁴⁾

¹⁾ 〒 173-0004 東京都板橋区板橋 4-46-2 (株)地域開発コンサルタンツ

²⁾ 〒 472-0041 愛知県知立市新地町西広見 30-19

³⁾ 〒 097-1201 北海道礼文郡礼文町香深入舟 レブンクル自然館

⁴⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

New record of *Patrinia sibirica* (L.) Juss. from Rishiri Island

Junko SUZUKI¹⁾, Keinosuke MIYAMOTO²⁾, Seiichirou MIYAMOTO³⁾ and Masahiko SATO⁴⁾

¹⁾Regional Planning Consultation Co., Ltd. 4-46-2, Itabasiku-Itabasi, Tokyo, 179-0004 Japan

²⁾30-19, Sinntimati Nishiniromi, Chiryuu-City, Aichi, 472-0041 Japan

³⁾The natural REBUNCLE, Kahuka, Rebus Is., Hokkaido, 097-1204 Japan

⁴⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

利尻島における高等植物についてはこれまで、館脇 (1941) が 82 科 512 種、菅原 (1962) が 97 科 594 種 28 変種 1 品種、中村ら (1968) が 70 科 340 種および松野 (1984) が 89 科 658 種を報告している。しかし、これらの報告においてチシマキンレイカの利尻島からの報告はなされていない。今回環境省レッドリストの改訂にともなうレッドリスト記載種の分布生育等を確認するために利尻町立博物館が実施した調査で利尻島よりチシマキンレイカの自生を確認したのでその詳細を報告する。

チシマキンレイカ (*Patrinia sibirica* (L.) Juss.) はオミナエシ科オミナエシ属の多年草の植物で高山や北方の礫地に生育する。草丈 7~15 cm で、6~8 月に黄色の花を多数付ける。礼文島においては 6 月中旬に開花する。その分布はシベリアからサハリン・千島列島であり、日本においては北海道の高山や寒冷地に生育している。

日本産のオミナエシ属は 6 種 (マルバキンレイカ*, オミナエシ*, チシマキンレイカ*, オオキンレイカ, ハクサンオミナエシ, オトコエシ*) 3 変種 (ハマオミナエシ*, シマキンレイカ, キンレイカ) が確認されている。



写真 1. 利尻島大空沢産のチシマキンレイカ。
Photo 1. *Patrinia sibirica* observed at O-kara-sawa, Rishiri Island.

北海道にはこれらのうち4種1変種(*をつけた種)が分布しており、礼文島においてはチシマキンレイカ1種のみが分布するが、利尻島においてはこれまでオミナエシ属植物の報告はない。

調査は平成15年7月1日に利尻郡利尻町仙法志大空沢の源頭部まで出現植物の記録調査を行った。大空沢は利尻山を源頭とする全長約6.5kmの空沢であるが、春の雪解けの季節のみに河床には流水が見られる。今回の調査時には源頭部付近で豊富な水量が確認できたが、標高が低くなるにつれて河床には流水は確認できなかった。大空沢は現在、土石流被害対策のため標高約130m付近まで砂防ダム工事が行われている。大空沢の源頭部(標高約900m)には利尻山山頂部直下にまでに続く岩壁があり、その岩壁には利尻山山頂から山腹のみに生育するエゾノハクサンイチゲ、シコタンソウ、リシリオウギ、ヨツバシオガマ、イワギキョウ、ミヤマアズマギクなどが生育していることが源頭部より今回の観察で確認できた。また、それらのうちいくつかの植物が岩壁より落下し、標高の低い川原においても生育する状態が観察できた。

チシマキンレイカも同様に源頭部の岩壁に生育する個体が確認できた。また、大空沢下流部の河原(礫地)においても生育が観察された(写真1)。大空沢の植物相調査は、北海道指定天然記念物のチシマザクラ群生地が本地域にあり、これまでチシマザクラの開花時の6月上旬期に調査に限られていたため、本種の確認がなされなかったと思われる。

松野(1984)によればこれまで礼文島に生育し、利尻島に生育が確認されていない植物は約150種ある。チシマキンレイカは道内では主に高山帯に生育しているが、礼文島のチシマキンレイカは海岸近

くの礫地に生育が観察される。利尻島においても同様な環境が多く見られることから今後チシマキンレイカの生育がさらに確認されることが予想される。今後もそれぞれの植物の開花期にあわせて四季を通した植物相の調査を行うことによって利尻島における新たな植物の分布を確認することができるとと思われる。

植物相の調査は地域の植生の変化などを知る上で重要な資料となる。最近の地球温暖化や帰化植物の増加などを踏まえ、利尻島の植物相についてさらなる調査が必要と思われる。

参考文献

- 宮本誠一郎・柚田美野里, 2001. 新版礼文島の島花の道 40pp. 北海道新聞社
- 梅沢 俊, 1997. 北海道山の花図鑑 利尻島・礼文島 36pp. 北海道新聞社.
- 清水建美, 1994. 週刊朝日百科 植物の世界 第9号. オミナエシ科 1・267-1・271pp. 朝日新聞社.
- 松野力蔵(編), 1984. 利尻島の植物目録と礼文島特産植物目録. 38 pp. 自刊.
- 北村四郎, 1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ. オミナエシ科 146-147pp. 平凡社.
- 中村武久・梶田信弥・森 務・渡辺耕造, 1968. 利尻島の植物. 25-54 pp. 中村武久(編), 利尻島動植物調査報告. 東京農業大学第一高等学校.
- 菅原繁蔵(編), 1962. 利尻島の植物. 29 pp. 利尻町教育委員会.
- 館脇 操, 1941. 北見利尻島の植物. 札幌農林学会報(34): 70-102.